

MINIMAX

DESIGN STUDIO

MINIMAXゲージフェイス セッティングマニュアル

はじめに

この度はMINIMAX製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
当製品のクオリティを最大限活かすためにも、是非このマニュアルをご熟読の上で
作業下さいませよう宜しくお願い致します。
実際の作業に入る前に一度全体の流れに目を通し、おおよその必要時間を設定し、
日暮れ時刻までかからぬようご注意ください。
特に、4-1以降の作業は明るい時刻でない作業が困難となります。
メーターを車体から外した後は、全ての作業が完了するまでは
走行できないものと想定して下さい。
くれぐれも余裕を持って、じっくりと丁寧な作業を心掛けて下さい。

製品内容

- MINIMAXゲージフェイス本体 (スピード+タコ)
- 両面テープ
- 化粧ラベル (スピード&タコ用各1枚)
- スイッチBOX付きELインバーターユニット×1
- 接続ケーブル×2本
- 結線用エレクトロタップ×1

取付に必要な工具類

- プラスドライバー ●マイナスドライバー
- 10mmサイズ六角ナット用ドライバー (ドライバータイプのほうが作業性が高い、本文内4-4参照)
- トルクスドライバー (T20/25/30/45サイズ各1本)
※T-20サイズのは全長の長いものと短いもの各1本あると便利です
※T-45サイズは、ラチェットハンドル+ビット式のを推奨
- カッターナイフ ●ラジオペンチ ●工具先端保護用の布
- プライヤー ●ビニールテープ ●養生テープ ●粘着両面テープ
- 配線用結束バンド ●樹脂製内張り剥がし

※以下、あると便利なもの
●直径1mm以上の針金(ワイヤー) ●マグネット式ビス用トレイ
(上記すべてMINIMAXでも取扱っております。詳しくはお問合せ下さい)

安全上のご注意

- 取付に際しまして、工具等をご使用の際には怪我等に十分ご注意ください。
- 当製品には鋭利な箇所がございます。取扱いには十分ご注意ください。
- 電気配線加工を工程に含みますので、必ず作業前にバッテリーのマイナス端子を外して下さい。
- 交換作業は全て自己責任にてお願い致します。
- 作業中・作業後、また製品使用中に生じる事故・損害において、弊社では一切の責任を負いかねます。
- 当マニュアルに明記してある推奨作業方法・工程に沿わずに作業した場合、正常に製品の機能が動作しない場合がありますので予めご了承下さい。

製品仕様上の留意点

- バッテリーの状態や車体のチューニング状態、またアース系統の状態により、ELイルミネーションがチラつく場合がございますので、予めご了承下さい。
- 当マニュアルでは、EL照明用電源を「ライセンス灯」から取るよう推奨しております。車体の仕様上、イグニッションON時に「ハルブ切れ感知機能」が働き、スモールライトOFF時でもEL照明が数回点滅することがございますので、この点につき予めご了承下さい。
- ELパネルを点灯させるにあたり、インバーターから若干の「ピー音」が出ます。EL点灯には不可避なものであり、製品不良・故障ではございません。

MINIMAX DESIGN STUDIO

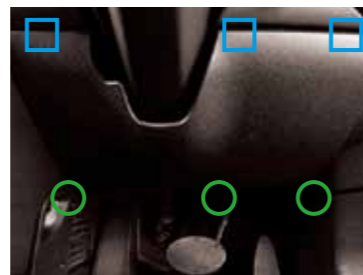
名古屋市中央区大須3-1-36-6F TEL:052-269-9071 FAX:052-269-9773
E-mail:minimax06@msn.com URL: http://minimax-design.net

1

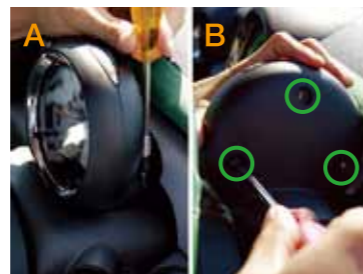
メーターユニットの取外し



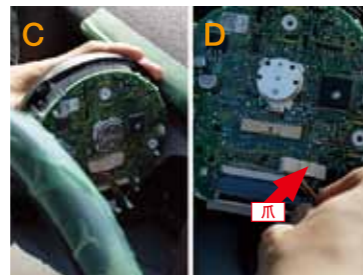
1-1: マイナス端子の取外し
全ての作業前に、まずバッテリーのマイナス端子を外します。バッテリーはエンジンフードを開けて右奥、フロントガラスすぐ前にあるカバーの中にあります。右側がマイナス端子。



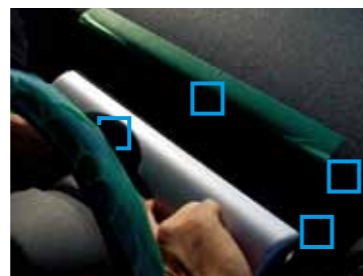
1-2: アンダーカバーの取外し
運転席足元のアンダーカバー底面にある3本のビスを外します。内張り剥がし等を使用し、上部(フック式)を手前に引いて外します。フックは上部に3ヶ所あります。フック部分が固い場合は樹脂製内張り剥がし等を溝に差し入れて外します。



1-3: タコメーターの取外し
内装保護のため、ダッシュボード前面・ステアリング背面に養生テープを貼ります。小メーター裏側にある2本のT-25トルクスビスを外します(A)。小メーター底部より伸びるケーブルに注意しながら、写真のように小メーターを90度手前側に向け、背面の3本のプラスビスを外し(B)、背面カバーを分割する要領で外します(C)。ケーブルと小メーターをつなぐコネクタの爪(矢印)を解除し、ケーブルと小メーターを分離します(D)。小メーターが車体から外れたら、一旦背面カバーを元に戻しておきます(ビス留め不要)。



⚠ 小メーターを外した状態で絶対にエンジンを始動しないで下さい。車体認識状態が解除されてエンジン始動不能になることがあります。この場合ディーラーでの車体再認識作業が必要となりますのでくれぐれもご注意ください。



1-4: ダッシュパネルの取外し
写真のようにダッシュパネルの内側に両手をかけ、手前に引いて(フック式)外します。フック部分が固い場合は樹脂製内張り剥がし等を溝に差し入れて外します。



1-5
スピードメーター横のエアコン吹出口(運転席側)を固定している2本のビスを外します。

当マニュアル内の表記方法・用語の説明

当マニュアルでは、写真に対応した説明文を掲載しております。以下、写真内のアイコンと用語の説明です。

写真内アイコンについて

- ビス・ナットの位置
- フックの位置(「フック式」と記述がある場合に使用)

本文中の記述について

- マニュアル内で「ビス」という表記は全て「T-20」サイズのトルクスビスを指します。
- それ以外の場合は個別に「プラスビス」「T-25トルクスビス」という表記をします)



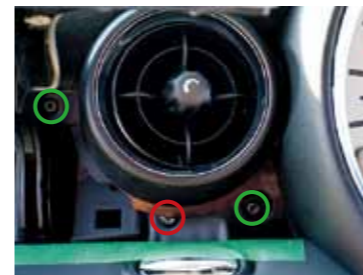
1-6: クラッシュパッドの取外し
スピードメーター横(運転席側)のエアコン吹出口を浮かせ、写真の位置のビス2本を外します(A)。底面側のビス(写真参照)2本を外し(B)、クラッシュパッドを外します。



1-7
助手席側の開閉式ダッシュパネル(小物入れ)を開き、内張り剥がし等を使用して写真の位置にあるメクラプタを外します。フック式ですので、溝に内張り剥がし等先端の薄いものを引っ掛けて引くだけで外れます。マイナスドライバーでもOKですが、キズ防止のため先端を柔らかい布などで保護して下さい。



※「ストレージパッケージ」「CDチェンジャー」未装備車の場合、「開閉式ダッシュパネル」ではなく「フック仕様の固定式」となりますので、内張り剥がし等を使用して引き抜きます。



1-8
メクラプタ裏側に隠れていたビスを外します(緑丸の2本)。赤丸のビスは次の工程で外します。



1-9
助手席側クラッシュパッド底面にある3本のビスを外します。スピードメーター横(助手席側)のエアコン吹出口を浮かせ、上部のビス(1-8の写真の赤丸)を外します。



1-10
クラッシュパッドをずらし、写真の位置にあるビスを外します。(クラッシュパッド本体は左端のビスが留まっている関係で完全には外れません)



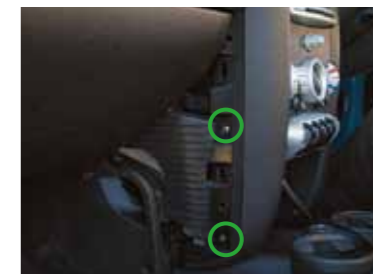
1-11
大メーター上部のグリル(一番手前側2ヶ)を、先端を保護したラジオペンチを使用して外します(A)。グリル内部への落下に注意。外したグリルの奥にあるビスを外します。左右2ヶ所あります(B)。ビスの落下に注意。



1-12
写真のように、スピードメーターカバーを手前に引いて外します。天面にハザードスイッチコネクタが付いたままダッシュボード上に置いておきます。このカバーは下側に2本のフックがあり、CD挿入口上側にかかっています。



1-13: サイドパネルの取外し
サイドパネルの接合部の溝に内張り剥がしなどを差し入れて、手前に引いて外します。この時グローブBOXに干渉する部分がありますのでキズ防止のためにサイドパネル側に養生テープを貼り保護します。グローブBOXを開かせながら外します。フック式ですので引くだけです。運転席側も同じ要領で外します(養生テープによる保護は不要)。



1-14: センターパネルの取外し
写真の位置にある2本のビスを外します。運転席側も同様に外します。



1-15
シフトレバー奥のスペース部分に内張り剥がし等差し入れて、突き当たりにあるL字パネルを外します。先の細いマイナスドライバーを天面側の溝に掛けたと外しやすいです(内部に照明を当てるなどで構造をよく理解し、その後実際に作業して下さい)。



1-16
突き当たりにあるT-30トルクスビスを外します。固い場合ネジ先端をナメてしまわないようご注意ください。



1-17
センターパネルを手前に引いてずらし、フック式ですので引くだけで外れます。この時、センターパネル裏にA/C用・集中スイッチ用各コネクタ・AUX端子ケーブルが付いたままですので、無理に引き抜かないようご注意ください。



1-18
センターパネル裏のエアコン用コネクタ・集中スイッチ用コネクタ(A)を、写真を参考にして外します。爪を解除してロックを外し(B)、コネクタを抜きます(C)。下部にAUX端子用ケーブルがありますが、これは外さなくてもOKです(左写真全てセンターパネル上側から覗き込んだ状態)。



1-19: センターメーターの取外し
写真のようにセンターパネルをずらした状態で、オーディオユニットを固定している2本のアルミビス(T-20)を外します。他のビスと混同せぬようにご注意ください。



1-20
センターメーター背部上面にあるアルミビス(T-20)を外します。他のビスと混同せぬようにご注意ください。



1-21
オーディオユニット・スピードメーター一式を写真のように手前に引き出します。



1-22
スピードメーター背面左側にある黒いコネクタを外します。コネクタ上部の爪を押しながら引きます。



1-23
ユニット裏側の4本のビスを外します。手が入るスペースが限られているので、短いトルクスドライバーがあると便利です。

! スピードメーター裏の黒いコネクタを外した状態で絶対にエンジンを始動しないで下さい。車体認識状態が解除されて、エンジン始動不能になることがあります。この場合ディーラーでの車体再認識作業が必要となりますのでくれぐれもご注意ください



1-24
一旦、オーディオユニットを戻し(ビス留め不要)、スピードメーターのみを手前に引いて外します。

以上で両メーターユニットが車体から外れました。ここからはゲージ装着のため、室内での卓上作業をオススメ致します。

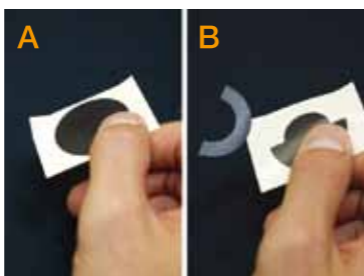
2 スピードメーターの分解とゲージのセッティング



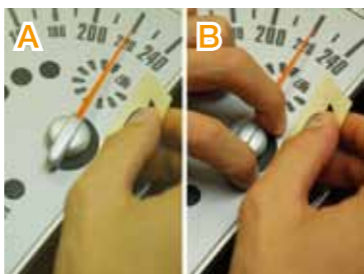
! ここからの作業前に「指針」について説明しておきます。ゲージ装着時、基本的に指針に触れてもOKです。ゲージを指針軸部にくぐらせて装着しますが、ゼロよりプラス側には指針を動かしても支障ないため神経質になる必要はありません。ただし、ゼロより「マイナス方向」には動かさないで下さい。マイナス方向には適度に「抵抗」があり動かないようになっていますが無理に力を加えようと動きます。この場合、走行時に正確な数値を指さなくなりますのでご注意ください。



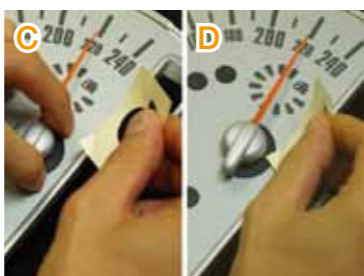
2-1: スピードメーターの分解
メーター周囲の爪をひとつずつ解除し、前面の透明アクリルカバーを外します。同様に、黒い樹脂製のカバーの爪を解除しながら外します。



2-2: 化粧ラベルの貼付
化粧ラベル(大)の台紙の角を直角に折り曲げます(A)。この部分に化粧ラベルの片側を貼り付けます(B)。



2-3
針を220km/hあたりまで動かしておき、ラベルの切り口(合わせ目)をゼロ方向に位置決めします(A)。位置が決まったら、上端・下端をそれぞれ指で押さえ(B)、台紙を引き抜きます(C)。台紙の角を使って確実に貼り付けます(D)。同様に反対側も貼り付けます。



2-4: 両面テープの貼付
付属の両面テープ(円弧形・大)を、純正パネル側4ヶ所(写真参照)に貼ります。左上部分(EL用ケーブルを逃がす箇所)には貼らないで下さい。
※この時点では剥離紙をはがさない



2-5
付属の両面テープ(長方形)を、写真に従い6ヶ所(写真参照)に貼り付けます。



2-6: ゲージパネルのセット
ゲージパネル裏側、中心円周囲に貼付済みの両面テープの剥離紙をはがし(2-4・2-5の工程で貼った両面テープの剥離紙はそのまま)、ゲージパネルを、指針の先端下側よりくぐらせていきます。



2-7
オーディオ操作ユニット用開口部にゲージが収まりますので、大まかな位置決めは簡単です。7ヶ所ある警告ランプ用の円を基準にして、正しい位置決めをした後、針軸周囲部分を押し込んで圧着します。この時、左上部分(EL用ケーブルを逃がす箇所)以外の部分を圧着して下さい(指針がマイナス方向に動かぬよう注意)。



2-8
2-4および2-5で貼り付けた両面テープの剥離紙を、ゲージパネルをめくりながら剥がしていき、1ヶ所ずつ確実に圧着していきます。
※写真のようにカッターナイフを使用すると作業効率が上がります。盤面へのキズや怪我にご注意下さい。



2-9
ゲージパネルより伸びているEL用接続端子(平型)を、メーターユニットのフック穴(2-1で分解した黒い樹脂製カバーのフック穴)に通します。



スピードメーターのセッティング完了です。

2-10
ゲージの表面に付着した油脂やホコリを拭き取り、2-1の逆手順でユニットを組み直します(アクリルカバーをはめる前に内側に指紋等があれば拭き取ります。表側は全ての作業が完了してからOK)。2-9の工程の平型端子と付属の接続ケーブルを接続(向きは表裏いずれでもOK)し、ビニールテープを巻いて固定します。

3 タコメーターの分解とゲージのセッティング



3-1: タコメーターの分解
爪を解除しながら黒樹脂製カバーを外した後、同様に透明アクリルカバーを外します。はまっているだけの黒樹脂リングも外します。

! スピードメーターと同様、指針をゼロより「マイナス方向」には動かさないで下さい。「プラス方向」には動いても支障ございません。



3-2
スピードメーターの時と同じ要領で、化粧ラベル→円弧形両面テープ(写真の位置参照)→長方形両面テープの順に貼り付けていきます。この場合もやはり化粧ラベルはゼロ角度に切り口がくるように位置決めして貼り付けて下さい。



3-3: ゲージパネルのセット
スピードメーターと同じ要領で、ゲージ裏面に貼付済みの円形テープの剥離紙を先に剥がし、指針先端からくぐらせるようにしてセットして下さい。

※液晶ディスプレイ両サイドの操作ボタンを通す時に、ゲージパネルを反らせても構いません。パネル自体が柔軟性のある素材ですので、割れる心配は不要です。



3-4
両面テープ部分をしっかりと圧着し、油脂・ホコリを拭き取ったら、3-1の逆手順でメーターを組みます。ゲージパネルから伸びる平型端子&ケーブルはメーター背面の基盤側に回しておきます(この時点では背面の黒カバーはビス留め不要)。

以上で、両ゲージのセットが完了です。車内に戻り、慎重に作業を続行しましょう!

4 EL用電源の取り回し

※ここからの作業は最終的な仕上がり・美しさに大きく影響します。慎重に、丁寧に、落ち着いて作業して下さい。もし日暮れ時が近く、見えづらくなる時間帯までかかる可能性がある場合はここまで作業を中断して翌日の明るい時間帯に作業して下さい。

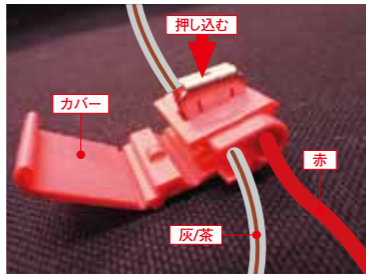


4-1: 電源とアースの接続
助手席側ドアを開け、レインレールを外します。ドアヒンジ辺りから、搭乗口後部まで外しておきます。



4-2
助手席側シートベルト固定部を外します。T-45のトルクスビスを外しベルト本体を外します。

⚠ シートベルトを固定せずに走行すると非常に危険ですので、固定し直すまではくれぐれも走行せぬようご注意ください。外したビスと円柱状金属パーツの紛失にも注意。



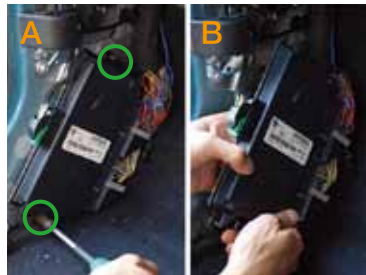
4-8
この「灰/茶」線に、インバーターから伸びている赤線を付属のエレクトロタップを使用して接続します。タップは、貫通している方に「灰/茶」線を、フタのしてある無貫通の方にインバーター赤線を入れ指で固定しておき、プライヤーを用いて金属の突起部分を確実に奥まで押し込みます。この押し込みが甘いとは接触不良によりEL照明が点灯しませんので確実に行って下さい。なお、4-15の工程でELの点灯が確認できるまではカバーをはめないで下さい。



⚠ この「灰/赤」線に、インバーターから伸びている赤線をエレクトロタップで結線する時、「灰/茶」線をできるだけ引き出しておき、可能な限り奥側の部分(左写真の矢印部分が目安)で結線して下さい。コネクタ側に近すぎると、4-6で外したカバーがエレクトロタップに干渉して再装着できなくなります。



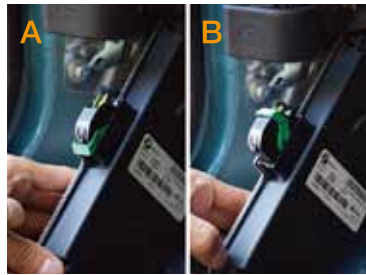
4-3
助手席側足元、搭乗口内側の黒い樹脂カバーを外します。フックを1ヶ所ずつ外していきます。フックの位置は工程5-1の写真を参照して下さい。



4-4: プラス電源の接続
助手席足元左奥にあるコントロールユニットを外します。上下にそれぞれ10mmサイズの樹脂製ナット(写真参照)がありますので、写真のようなドライバー(A)があると便利です。上下2本を外したら、ユニットごと手前に引き出します(B)。



4-9
4-8で確実に結線できたら、4-6で外したカバーを再びスライドさせて戻し、4-5で外した3ヶのコネクタを確実に接続し直します。4-4で外した樹脂製ナットでユニットを再び固定します。



4-5
手前側のコネクタ(A)のロックを解除(B)して外します(C)。同様に奥側の2つのコネクタを外します(D)。コネクタのロック解除方法は1-18で外したコネクタと同じです。

⚠ このコントロールユニットの3ヶのコネクタを外した状態で絶対にエンジンを始動しないで下さい。車体認識状態が解除されてエンジン始動不能となります。この場合ディーラーでの車体再認識作業が必要となりますのでくれぐれもご注意ください。



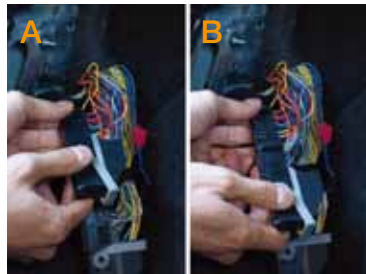
4-10
次にインバーターからの黒線(先端にクワガタ端子がある線)を、ボディアースします。車体の金属部分か、写真の位置のボルトを緩めて共締めして下さい。



⚠ このコントロールユニットの3ヶのコネクタを外した状態で絶対にエンジンを始動しないで下さい。車体認識状態が解除されてエンジン始動不能となります。この場合ディーラーでの車体再認識作業が必要となりますのでくれぐれもご注意ください。



4-11: 配線の取り直し
助手席足元の右奥に位置するカバーを外します。2本のビスで固定されています。同様に運転席側(ビス3本)も外します。



4-6
外した奥側コネクタのうち、上側のコネクタ(A)を手前に引き出し、写真のようにカバーをスライドさせて(B)外します。カバーは、コネクタ奥側(写真の左手で持っている位置)が爪で留まっており、この爪を左右に広げることで解除できます。



4-12
スピードメーターをオーディオユニットに固定し直します。1-19~1-24の逆手順で作業します。この時、2-9で固定したケーブルをオーディオ裏側のスペースから写真のように運転席側足元に逃がしておきます。

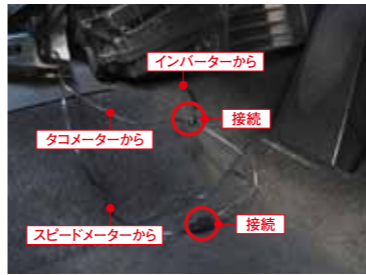


4-7
写真の「灰/茶」線を探します。手前側から数えて3ピン目にある線がこれに当たり、「ライセンスプレート灯」の電源になります。

⚠ テスターを使用する場合、4-5の工程で外した全てのコネクタとスピードメーター・タコメーター裏の両コネクタを全て戻して検電して下さい。



4-13
同様に、タコメーター裏からのケーブルを、写真の緑線に従い足元へ逃がします。1-4、1-6で外したダッシュパネルとクラッシュパッドの裏側を通り取り回します。再度これらのパネル類を戻す際にビス穴やクリップ穴にケーブルが干渉しないようにご注意ください。



4-14
インバーターユニットから伸びているコネクタケーブルのコネクタ端子4ヶのうち任意の2ヶ所に、各メーターから足元に引き出した端子を接続します。4ヶ所ある端子のうち、いずれの端子でも構いません。



4-15
この段階で一度バッテリーのマイナス端子を戻し、スモールライトONにしてEL照明の点灯を確認します。

くれぐれも全てのコネクタ、ケーブルが確実に接続されていることを確認した上でテストして下さい。

この時点でもし照明が点灯しない場合、考える原因は以下のものが挙げられます。

- ①4-8工程での結線不良→プライヤーで金属部分を再度押し込む。
- ②4-8工程の不備→「灰/茶」に結線したかどうかもう一度確認。
- ③4-9工程の不備→ボディアース位置に車体の塗装が干渉していたり、共締め不足による原因。
- ④各メーターに接続したケーブルやピンが確実に接続されているか、配線取り回しの際に外れていないか確認。

→周囲が明るい時間帯や、イルミネーションカラーによっては点灯が視認困難な場合がありますのでご注意ください。

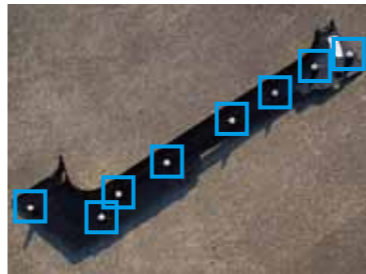
→インバーターユニットの黒いBOXから高周波の「ピー音」が聞こえていれば通電していますので上記①~③の不備はありません。この場合は上記④の不備を確認して下さい。

→この「ピー音」はスイッチBOXのボリュームツマミをMAX(一番右側)にしてご確認ください。またツマミ横の切替スイッチも切替えてみて下さい。

もしいずれの原因を当たっても解決しない場合は **MINIMAXサポートダイヤル(052-269-9071)** までお電話下さい。

EL照明の点灯確認が出来たら 残りは各部の組み戻しです。

5 各部の組み戻し



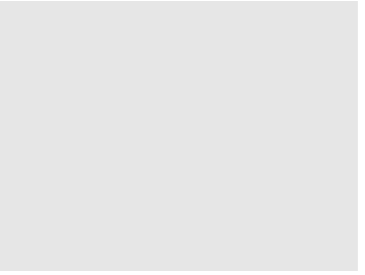
5-1: 助手席側パネルの組み戻し
電源ケーブル、アース用ケーブルを束ねて、4-3の工程で外したパネルを戻します。もし車体側に白い樹脂製のクリップが残っている場合は車体から引き抜き、写真のようにパネル裏側に配置します。後端上部をはめ直す際、入りにくい場合はさらにその上の樹脂パネルを引いて空間を作りはめ込みます。全てのクリップ部分を軽く叩いて確実にはめていきます。



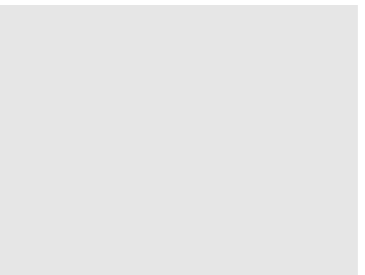
5-2: インバーターユニットの固定
インバーターユニットを4-11で外したパネルの裏側の空間に固定するか、もしくはタッピングビス(別途ご用意下さい)を用いて任意の樹脂部分に固定します。プラス・マイナス線は、助手席足元奥のカーベットをめくった裏側に通すか、任意の方法で取り回して下さい。



5-3: スイッチBOXの固定
スイッチBOXを強粘着両面テープを用いて任意の位置に固定して下さい。



5-4: ケーブル類の処理
ケーブル類が足元に残っていると、仕上がりが美しくないばかりか、断線などの危険性があり非常に危険です。丁寧に結束し、4-11で外したパネルの裏側(奥側)や、1-2の工程で外したアンダーカバーの裏側(奥側)に固定して下さい。



5-5: 各メーターユニットの固定
1-1~1-18までに行った工程の逆手順で各パネル類を戻して固定します(4-1・4-2・4-11も戻す)。くれぐれも配線の接続やコネクタの戻し忘れにご注意下さい。※フック式の箇所は強く押さえるか軽く叩いて戻します。

混同しやすいビスをここでおさらいしておきます。

- ①オーディオユニット両サイド固定用:アルミビスX2(T-20)
- ②スピードメーター奥上面固定用:アルミビス(T-20)X1本
- ③シフトレバー奥・突き当たり固定用:T-30トルクスビスX1本
- ④タコメーター裏黒カバー固定用:プラスビスX3本
- ⑤タコメーターと車体の固定用:T-25トルクスビスX2本
- ⑥助手席側シートベルト固定用:T-45トルクスビスX1本

上記以外は全てT-20トルクスビスとなります。

⚠ 助手席側シートベルトは確実にビスで固定して下さい。不備がある場合、安全上非常に危険です。くれぐれもご注意ください。

5-5の作業が終了すれば全ての作業が完了です。お疲れ様でした。

最後に

- ①スイッチBOXの操作について
左側ツマミが照度調整ボリュームで、右側のスイッチがカラー切替スイッチです。ただし「輝度アップコンバーター」装着の際には左側ツマミは機能せず、輝度は右側のスイッチでの2段階調節となります。
- ②インバーターからの「ピー音」について
照明光源にELパネルを使用する関係上、インバーターからの高周波音は不可避です。気になる場合はスイッチBOXの右側スイッチを切替えて、音の小さいほうを選択して緩和して下さい。
- ③時計の再調整について
バッテリーターミナルを外す関係上、時計がリセットされます。MINIの取扱説明書を参照して再設定して下さい。
- ④燃料計について
MINIMAXゲージでは、燃料計の表示形式が純正とは異なります。純正のLEDをそのまま流用しておりますので燃料残量自体の表示に違いはございませんが、デザイン上、純正の表示に比べてやや見づらくなるモデルもございますのでご注意ください。
- ⑤シートベルト警告について
スピードメーター中央最上部のシートベルト警告灯は純正のアイコン部分の範囲を狭めて表示されます。純正に比べると小さくなりますのでご注意ください(シートベルト警告は、「警告音」に加え、タコメーター内ディスプレイにも表示されます)。
- ⑥温度計について
バッテリーターミナルを外す関係上、まれに温度計がリセットされ正常でない値を表示することがございますが、しばらく走行して頂く事で自動的に再設定されます。再設定されるまではオートエアコンなどが正常に作動しないことがありますので予めご了承下さい。
- ⑦車両の個体差による問題について
車両固有の個体差により、このマニュアル通りにパネル類が外れなかったり、ビスの位置・本数・形状が異なる場合があります。また、仕様変更により同様の相違が生じることもございますので予めご了承下さい(本マニュアルは2008年モデルの仕様に基づいています)。
- ⑧メーター指針の差し込み深度の個体差
メーター指針の差し込み深度が車体により異なる場合があります。指針の軸部分とMINIMAXゲージパネルが干渉することがございます。この場合、盤面に擦れ傷がついたり、指針が正常に動作しない可能性がありますので、ご購入ショップまたはMINIMAXまでご相談下さい。

取付サポートダイヤル **052-269-9071** (受付時間 9:00-21:00)